

平成28年度愛知県がんセンター公開講座(第1回)のご案内

「乳がんをもっと知ろう」

= 平成28年5月21日(土)開催 =

〈 講師からのメッセージ 〉

「増える乳がん、予防と早期発見」

乳がんは、現在、日本人女性で、最も多くの人がかかっているがんです。乳がんにかからないためには、乳がんの危険因子が何かを知り、それらを減らす努力をすることが大切です。

もし、乳がんにかかったとしても、早期に発見され、適切な治療を受ければ、乳がんで命を落とすことはほとんどありません。乳がんを早く見つけるためには、定期的に乳がん検診を受けることが大切です。

また、乳がんの治療後、再発を防ぎ乳がんで亡くならないためには、乳がん死亡リスクを上げる因子が何かを知り、日常生活でそれを避けるように心がけることも大切です。

疫学・予防部 室長 伊藤 秀美

「選択肢の増えた乳がん手術」

乳がんの治療の柱は、手術、薬物療法、放射線治療です。治療に関する個別の希望も、可能な限り選択肢を提示することができるようになりました。薬物療法の進歩と同様に、手術方法も選択肢が増えています。乳房温存手術、全摘術に加え、全摘術と同時に乳房を作る、再建手術が増加しています。再建手術にもいくつかの方法があり、自分の組織を用いたものや人口物を用いたもの、それぞれの特徴があります。また全摘術が必要な状態であっても手術前に薬物療法を行うことによって温存手術が可能になることもあります。最初のがん細胞の特徴を知ることでも大事です。本講座では手術に焦点をあて、これらを紹介します。

乳腺科部 医長 澤木 正孝

「ここまで進んだ薬物治療」

乳がんの治療法は大きく手術治療、放射線治療、薬物治療の3つに分けられます。その中で薬物治療は全身治療と位置付けられ、手術前のがん縮小を目的とした治療、手術後の再発抑制を目的とした治療、再発時の延命、症状緩和を目的とした治療として用いられます。また、薬物治療といっても女性ホルモンを抑えるホルモン治療、いわゆる抗がん剤による治療、また最近の分子標的薬による治療など、さまざまな治療選択肢があります。今回、個別化がすすむ乳がんの薬物治療について、新しい治療薬の話題も含め紹介をいたします。

乳腺科部 医長 服部 正也

「あなたの生活を守ります」

マザーテレサは、「病気や貧しさが不幸なのではなく、誰からも関心を持たれず見捨てられていると感じていることが不幸」だといっています。ですから、愛する人や大事な仕事を持っている乳がん患者さんは、治療や生きることに前向きです。一方、病気になったことを悲しみ、再発に怯える患者さんの多くは、人間関係や社会生活に問題を抱えています。しかし残念なことに、その大半は愛してくれる人や大事な仕事の存在に気づいていないことです。

私たち医療者（看護師）は、乳がん患者さんが、希望と自信を持って生きれることを願い、ともに考え、支えていきます。

看護部 乳がん看護認定看護師 高木 礼子